

社会学研究会への貢献に感謝して

杉山佳子

学園紛争の前に社会学研究会という学生のクラブ活動があったことは、明治学院大学にかかわるわずかな人の記憶に残るだけとなってしまいました。一、二年に一度ずつ集まりをもっているわれわれ社会学研究会のメンバーは、そのクラブ活動を懐かしみ記録を残そうと密かに計画をしています。

一九九一年に作成された「明治学院大学 社会学研究会OB・L会」名簿には、作成者として松島浄先生のお名前があります。明治学院大学の現役の先生として、先輩の要請にこたえ会合のたびに教室の確保、案内文の作成と発送を黙々と続けてこられました。

名簿には顧問の先生方のお名前が書かれています。阿部志郎先生、大谷嘉朗先生、大橋薫先生、館逸雄先生、服部治雄先生、福田垂穂先生、三好明先生、山中一郎先生、山室周平先生、吉田裕先生、若林龍夫先生、渡部栄先生です。社会学科の昭和二七年卒業の先輩の名前から始まり、昭和四七年卒業の一九六七年度生まで、一六〇人余りになります。この度、久しぶりに目を通しますと懐かしい三和治先生のお名前もクラブの学生としてありました。

社会学研究会への貢献に感謝して

社会学研究会の活動は新入生のための社会学概論の学習会、夏休みの芝公園の緑陰子ども会、社会調査、白金祭での調査結果の発表、学内学会誌への調査結果の掲載や、社会学を学ぶ他大学生との交流などでした。中でも一番思い出に残るものは社会調査のための合宿です。六〇年度生の松島先生は六一年度生の私の先輩になります。先生の社会学を熱心に学ぶ姿勢に、同級生からも後輩からも、尊敬されていました。

農村社会学の服部治雄先生のご紹介で行った山梨県の山村調査は思い出に残るものでした。身延線の内船（うつぶな）という駅から一時間バスに乗り、山の中の林業中心の村での調査でしたが、小学校の教室に泊まり、毛布一枚に包まって寝て、面接調査を一〇日間続けました。最後の日は村祭りに参加して、われわれの調査に快く協力してくださった村の方々と一緒に盆踊りをおどりました。そこで松島先生が注目をあびたのは調査に行く昼ごはんのためのおにぎりの握り方の見事なことでした。

新明正道先生のゼミ生であった先生は、新明先生について中央大学の大学院に進学されましたが、その後お会いしたのは、一九八五年に私が社会学部付属研究所の연구원として、再び明治学院に通うようになってからです。そこで驚いたことは学部の卒論のテーマが、『ドイツ・イデオロギー』に関するものであったのに、専門は文化社会学をなさっていたことでした。そういえば学生の時から、現代詩をよく読んでいらっしやったことを思い出し、て納得しました。そして、社会学研究会も学園紛争で消滅したことを知りました。

一九九〇年頃から再び社会学研究会のメンバーは活動を開始しました。次々死亡し、メンバーが少なくなるばかりの集まりですが、館先生や渡部先生も参加していただき、仕事や研究について報告を聞き学びあっています。

松島先生が退職されると同時にこの会もきつと消滅することになるのだと思うと残念でなりません。この度先生の退職を期に送ることばとして、社会学研究会でのご活躍と貢献に厚く感謝し、後輩としてお礼を申し上げます。と思います。本当にありがとうございました。